



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第296号

2009年9月23日

みなさん、こんにちは。早いもので、9月も残り1週間ほどになりました。季節は、いつのまに夏から秋になったのだろう・・・そんなことを思う今日この頃。

● ピアノとマリンバの調べ

秋晴れの19日(土)に行われたロビーコンサート。今回は、マリンバとピアノの演奏です。

当日、館内は、あまり混み合っておらず、落ち着いた雰囲気の中、まず《美しきロスマリン》から始まりました。この曲はバイオリンのための曲だそうですが、「マリンバとバイオリンの音域が似ているので、バイオリンの曲をよくプログラムに入れています」と泉さんは説明されました。新しい楽器ゆえに、マリンバのための曲というのは少ないのだそうです。

その後、《トルコ行進曲》、《パイナップルラグ》、《ロンドンデリーの歌》と続き、マリンバのバチを変えながら、それぞれ異なった音色をお楽しみいただきました。

「マリンバを演奏しているというと、弾いて欲しいとよく言われる」という《くまばちの飛行》。始まる前に、泉さんは、ふうっと深呼吸。ひき始めた曲はとてもテンポの速くマリンバの音色も軽妙で、小さな男の子が座席で体を揺らしながら聴いていました。また、《ロンドンデリーの歌》やしっとりとしたアレンジで演奏された《ふるさと》では、湖面を走る波紋のように、静かな音色が館内に広がりました。



当館ロビーは、吹き抜け。毎回、二階からコンサートを鑑賞する方もいらっしゃいます(二階から)



水色のドレスが、マリンバの泉亜希さん
紺のドレス姿、ピアノの田中敦子さん

まだお若い泉さんとその横で、ピアノで伴奏する落ち着いた雰囲気の中、お二人の演奏とその雰囲気に、会場のみなさんは和んだ様子でアンコールの《千の風になって》までお楽しみいただきました。マリンバの軽やかな音色は、夏の暑さが過ぎ去り空気が軽く感じられる秋の一日にぴったりの演奏だったのではないのでしょうか。